

第62巻・第1号 平成26年1月1日発行

# 牧草と園藝

今こそ自給飼料を増産しましょう!

2014年 1月  
〈新年号〉



# 謹賀新年



平成26年の新春を迎え、皆様には健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。日頃より弊社事業につきまして、特段のご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

2011年の東日本大震災による甚大な被害は、今なお農業・環境に係る現場において大きな影響を与えており、安全な農畜産物の生産や農耕地の除染など復興へ向けてご尽力されている関係者の皆様のご苦勞に心より敬意を表します。

昨年は国内においても山陰地方をはじめ各地で記録的な豪雨や台風による被害が見られました。近年、世界各地で頻発する干ばつや洪水などの異常気象は、新興国の経済成長による需要構造の変化とも併せて穀物相場を高騰させる要因となっており、食糧のみならず飼料原料穀物需給の逼迫、また、種子生産・供給の不安定化など、農業分野においても多大な影響を及ぼしてきております。

経済・社会のグローバル化が進み、わが国の農業は、経済連携協定交渉が大詰めとなる中、ほぼ半世紀ぶりに米の生産調整（減反）の廃止を決定するなど、農産物の自由競争に向けた大きな政策転換がありました。また、配合飼料価格安定基金財源枯渇の顕在化により、国による「配合飼料価格高騰緊急支援特別交付事業」の実施、不足分については飼料メーカーによる緊急対応が実施され、今なお1,000億円に近い借入金を抱えており、制度の見直しが急務となっております。

国内政策・世界情勢の変化にしっかりと対応していくことは重要ですが、酪農・畜産は国土・飼料作物・家畜・糞尿の循環を通じた経済活動であり、方向を大きく転じるのではなく自然に向き合い“いかに円滑に循環させるか”に向けた個々の取組の改善こそが、足腰の強い酪農・畜産経営の確立につながるものと信じております。

弊社は創業者である黒澤酉蔵翁が提唱した「健土健民」を企業理念とし、牧草・飼料作物種子や乳牛用・肉牛用の配合飼料製品、サイレージ用乳酸菌などの酪農・畜産分野を中心に、緑肥作物や野菜種子また、芝草種子・緑化技術などの環境緑化分野まで幅広い分野で事業を展開しておりますが、今こそ長年に亘って培ってきた技術やノウハウを活かし、牧草・飼料作物など自給飼料を活用した生産基盤強化への貢献とともに、緑肥作物を活かした環境保全型農業の推進や自然・生態系に配慮した緑化用草種・技術の開発などを通して、日本の農業、酪農・畜産業の発展、持続型社会の構築へ向けた役割を果たしていきたいと考えております。

本年も農業、酪農・畜産の生産現場から幅広い生活分野に至り、数多くの商品と技術を取り揃え、皆様のご用命をお待ち致しております。

新年を迎えるにあたり、皆様のご健勝と益々のご繁栄を心からご祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

平成26年 元日

雪印種苗株式会社

代表取締役社長 川成 眞美